

# ツバキを守って島おこし

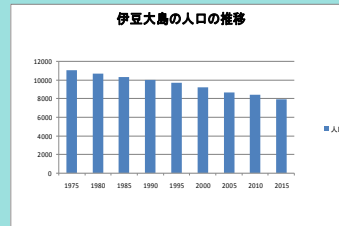
—ツバキを活用した地域振興の実践報告—



○中村 池谷 今江 (東京都立大島高等学校) (指導教員 金子)

## ■背景・目的

伊豆大島はヤブツバキ300万本が自生する日本一のツバキの島であるが、近年は過疎化による人口減少と観光客の減少が大きな課題となっている。さらに島は2013年の土砂災害で大きな被害を受けた。課題の解決と復興に向け、本校で取り組んでいる、ツバキを活用した地域振興の実践を報告する。



伊豆大島の人口の減少



2013年の土砂災害被災地の様子

## ■実践① 椿油づくり

校内でタネを集め、地域業者の工場で搾油、都内で販売し好評を得ている。椿油の生産品で、昨年全国農業高校収穫祭のお客さま賞(最優秀賞)を受賞した。また、絞油後の油カスは堆肥やマルチとして活用。取り組みにより椿林に手が入るようになった。



校内でタネを集め選別する



全国農業高校収穫祭の様子



## ■実践② 椿学

ツバキの授業で学んだことを活かし、生徒が園芸講座や椿ガイドなどを実施し地域貢献している。ツバキの産地を知ることで、日本や世界に目を向けることができる。挿し木や接ぎ木といった繁殖方法、実生による新品種の育成にも挑戦中である。将来的には苗木を増やし、土砂災害の被災地の緑化につなげていく予定である。



ツバキの繁殖講座



椿ガイドには多くの人が参加

## ■実践③ 国際優秀つばき園認定

2016年2月26日、伊豆大島に国際優秀つばき園が3園誕生した。国際優秀つばき園とは、ICS(国際ツバキ協会)の基準を満たし、その認定を受けた椿園でこれまで世界に39園、国内では九州の5か所のみであった。本校は東日本では初、さらに、教育機関の椿園としては世界初の国際優秀つばき園の認定となった。



大島高校椿園の様子



海外理事による視察(昨年10月)

認定は決して簡単なものでなく、200種類以上の個体数はもちろん、継続的な維持管理や学名等の明示等の基準を満たす必要がある。これを国内理事、海外理事の審査を経て、ICS理事会で審議認定された。中国雲南省大理での大会で代表生徒が発表し、基準を満たすのみでなく、高校生が地域の宝であるツバキの活用に熱心に取り組んでいることが大いに評価された。



英語で椿園を案内



中国雲南省の国際大会で発表

## ■まとめと今後の課題

これらの取り組みが評価され、2015年のエコワングランプリにおいて全国大会まで進み特別賞を受賞。報道関係各社にも多くの取材を受けている。伴って、志望者の増加、椿園の認知度向上など、多くの波及効果が得られた。今後も、島の宝であるツバキ守り活用することが、生徒数・観光客数・人口を増やし、島の活性化となるよう、学校ならではの活動に、果敢に取り組んでいく。



審査員特別賞(南沢奈央賞)受賞



2016.02.26 国際優秀つばき園認定

